

令和 2 年

北海道特用林産統計

令和4年4月

北海道

目 次

● 〈概要編〉

I	国内の主な特用林産物の生産動向	1
II	北海道の主な特用林産物の生産動向	
1	きのこ類	2
2	木炭・木酢液	3
3	薪	4
4	山菜類	4

● 〈資料編〉

I	特用林産物全般	
1	主要特用林産物生産量及び生産額の推移	5
2	主要特用林産物の都道府県別生産順位	6
3	主要特用林産物生産量の推移（全国対比）	7
4	特用林産物生産額の推移（全国対比）	8
5	主要特用林産物生産者数の推移	8
II	きのこ類	
1	生しいたけの月別生産量	
	（1）原木栽培	9
	（2）菌床栽培	9
	（3）生しいたけ合計	9
2	生しいたけ生産量における原木栽培と菌床栽培の割合の推移	9
3	生しいたけ生産規模別生産者数の推移	9
4	生しいたけ生産者の職業別内訳の推移	
	（1）原木栽培	10
	（2）菌床栽培	10
	（3）生しいたけ合計	10
5	しいたけ原木の調達ルート	10
6	しいたけ原木価格の推移	10
7	しいたけ原木伏込量の推移	11
8	菌床製造用おが粉の調達ルート	11
9	しいたけ菌床ブロック等の調達の推移	11
10	主なきのこ類の出荷先内訳	11
11	道内主要市場における主なきのこ類の産地別入荷動向の推移	12
12	一世帯当たりきのこ消費量の推移（二人以上の世帯）	12
III	木炭等	
1	木炭等用途別生産量の推移	13
2	木炭等品目別生産者数及び窯数の推移	13
3	木炭輸入量の推移	13
4	その他木炭等の生産量の推移	13
IV	山菜類、その他	
1	山菜類生産量の推移	14
2	道内主要市場における主な山菜類の産地別入荷動向の推移	14
3	その他の特用林産物の生産量の推移	14

目 次

● 〈概要編〉

I	国内の主な特用林産物の生産動向	1
II	北海道の主な特用林産物の生産動向	
1	きのこ類	2
2	木炭・木酢液	3
3	薪	4
4	山菜類	4

● 〈資料編〉

I	特用林産物全般	
1	主要特用林産物生産量及び生産額の推移	5
2	主要特用林産物の都道府県別生産順位	6
3	主要特用林産物生産量の推移（全国対比）	7
4	特用林産物生産額の推移（全国対比）	8
5	主要特用林産物生産者数の推移	8
II	きのこ類	
1	生しいたけの月別生産量	
	（1）原木栽培	9
	（2）菌床栽培	9
	（3）生しいたけ合計	9
2	生しいたけ生産量における原木栽培と菌床栽培の割合の推移	9
3	生しいたけ生産規模別生産者数の推移	9
4	生しいたけ生産者の職業別内訳の推移	
	（1）原木栽培	10
	（2）菌床栽培	10
	（3）生しいたけ合計	10
5	しいたけ原木の調達ルート	10
6	しいたけ原木価格の推移	10
7	しいたけ原木伏込量の推移	11
8	菌床製造用おが粉の調達ルート	11
9	しいたけ菌床ブロック等の調達の推移	11
10	主なきのこ類の出荷先内訳	11
11	道内主要市場における主なきのこ類の産地別入荷動向の推移	12
12	一世帯当たりきのこ消費量の推移（二人以上の世帯）	12
III	木炭等	
1	木炭等用途別生産量の推移	13
2	木炭等品目別生産者数及び窯数の推移	13
3	木炭輸入量の推移	13
4	その他木炭等の生産量の推移	13
IV	山菜類、その他	
1	山菜類生産量の推移	14
2	道内主要市場における主な山菜類の産地別入荷動向の推移	14
3	その他の特用林産物の生産量の推移	14

V	令和2年主な特用林産物の市町村別生産量	15
VI	令和2年主な特用林産物の振興局別生産量	15

＜特用林産物とは、＞

主として山林原野において産出されてきた産物で、きのこ類、山菜類、薬用植物、果実類、樹脂類、木炭、薪及び桐など、一般用材以外のものをいいます。

（注）

平成30年からの統計調査結果より、調査対象者数が2以下の場合には、個人又は法人その他の団体に関する調査結果の秘密保護の観点から、当該結果を「X」表示とする秘匿措置を施しています。

なお、全体（計）から差し引きにより、秘匿措置を施した当該結果が推定できる場合は、本来秘匿措置を施す必要のない箇所についても「X」表示しています。

林野庁作成の令和2年特用林産基礎資料（特用林産生産統計調査 結果報告書）と同様の取り扱いとしています。

<概要編>

I 国内の主な特用林産物の生産動向

1 きのご類

令和2年のきのご類生産量は462,277トン(前年比101%)で前年より増加している。

品目別では、「ぶなしめじ」「まいたけ」「エリンギ」「きくらげ類」は増加しているものの、「生しいたけ」「えのきたけ」「なめこ」「その他のきのご」は減少している。品目別の生産量は、最も多い「えのきたけ」が127,914トン、以下、「ぶなしめじ」が122,802トン、「生しいたけ」が70,280トン、「まいたけ」が54,993トン、「エリンギ」が38,500トン、「なめこ」が22,835トン、「ひらたけ」が3,824トン、「きくらげ類」が3,132トン、「その他のきのご」が1,851トンとなっている。

都道府県別では、長野県、新潟県、福岡県、北海道、宮崎県、がきのご類の主産地となっている。

2 木炭等

令和2年の木炭(白炭+黒炭)生産量は、7,826トン(前年比93%)で、前年より減少しており、品目別でも全て前年より減少している。

品目別の生産量は、最も多い「粉炭」が5,119トン、「黒炭」が4,878トン、「白炭」が2,948トン、「木酢液」が1,743キロリットルとなっている。

都道府県別では、「木炭(白炭+黒炭)」が岩手県、高知県、和歌山県、北海道、熊本県、「粉炭」が島根県、奈良県、岐阜県、宮崎県、北海道、「木酢液」は岩手県、宮崎県、静岡県、熊本県、北海道が主産地となっている。

3 山菜類

山菜類の生産量は、天候に左右されやすく、品目によって増減にバラツキがあるという特徴があるなかで、「たけのこ」と「ふき」が大部分を占めている。

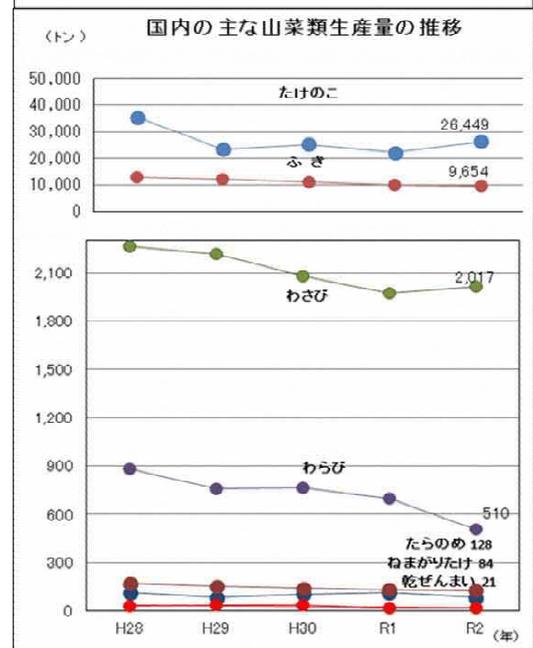
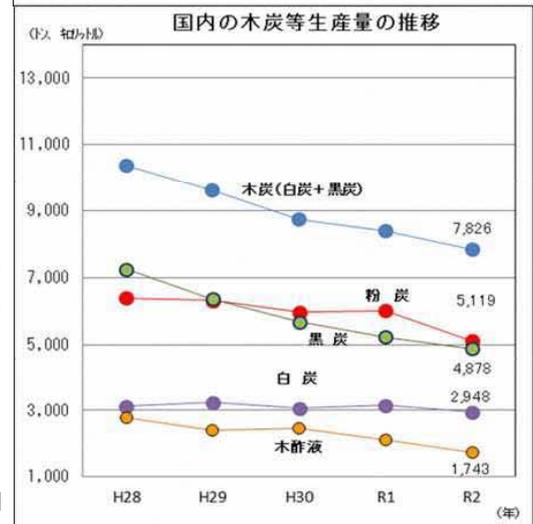
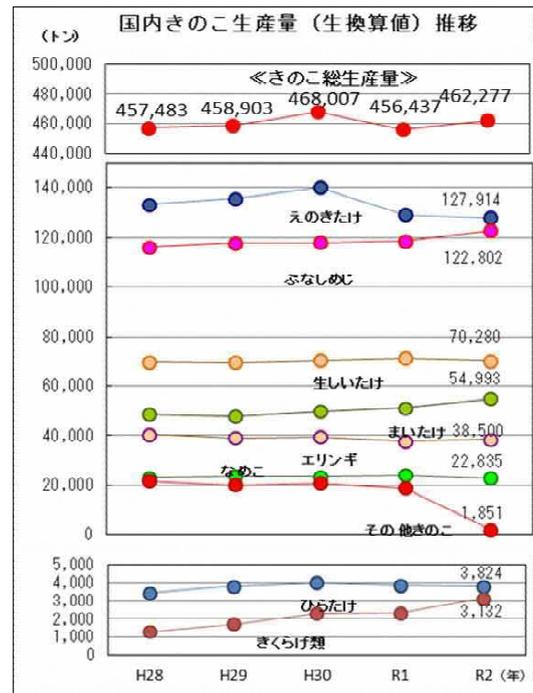
令和2年の品目別の生産量は、「たけのこ」が26,449トン(前年比119%)で前年より増加している。

以下、「ふき」が9,654トン、「わさび」が2,017トン、「わらび」が510トン、「たらのめ」が128トン、「ねまがりたけ」が84トン、「乾ぜんまい」が21トンとなっている。

都道府県別では、福岡県、鹿児島県、愛知県、熊本県、京都府が山菜の主産地となっている。

4 その他

上記のほか、全国各地で「くり」、「くるみ」、「竹材」、「桐材」、「薬草類」などの特用林産物が生産されている。



II 北海道の主な特用林産物の生産動向

1 きのご類

北海道では、「生しいたけ」のほか、「えのきたけ」、「ぶなしめじ」、「まいたけ」、「なめこ」などのきのこが各地で生産されており、令和2年のきのこ類の都道府県順位は、長野県、新潟県、福岡県に次ぐ全国第4位に位置し、全国でも有数のきのこ生産地となっている。

品目別では、「たもぎたけ」が全国第1位、「生しいたけ」が第2位、「なめこ」及び「まいたけ」が第4位となっている。

(1) 生産量

令和2年のきのこ類生産量(生換算値)は17,136トン(前年比97%)で、前年よりも486トン減少している。

品目別では、「えのきたけ」、「ぶなしめじ」、「まいたけ」、「なめこ」、「エリンギ」は前年よりも増加している。

「たもぎたけ」は前年並みで、「生しいたけ」「乾しいたけ」「きくらげ類」が前年より減少している。

地域別では、胆振、上川地域が主産地となっており、この2つの地域で道内生産量の約74%を占めている。なお、「生しいたけ」の生産量は、約98%が菌床栽培となっている。

(2) 生産額

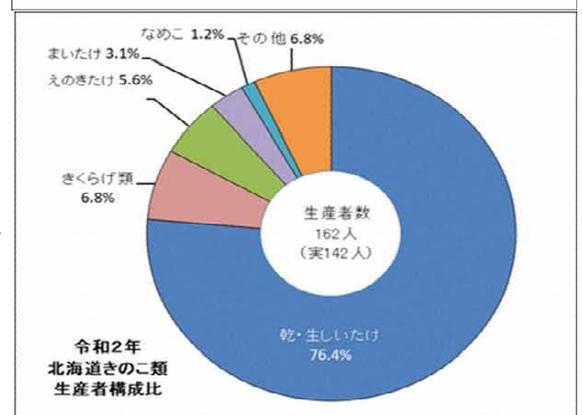
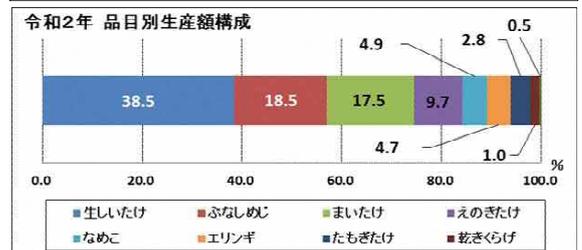
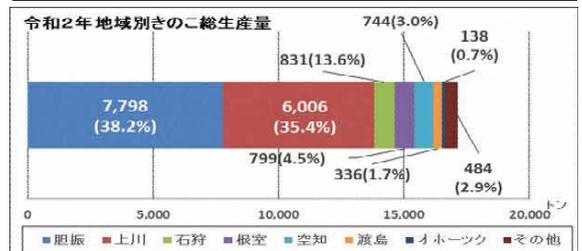
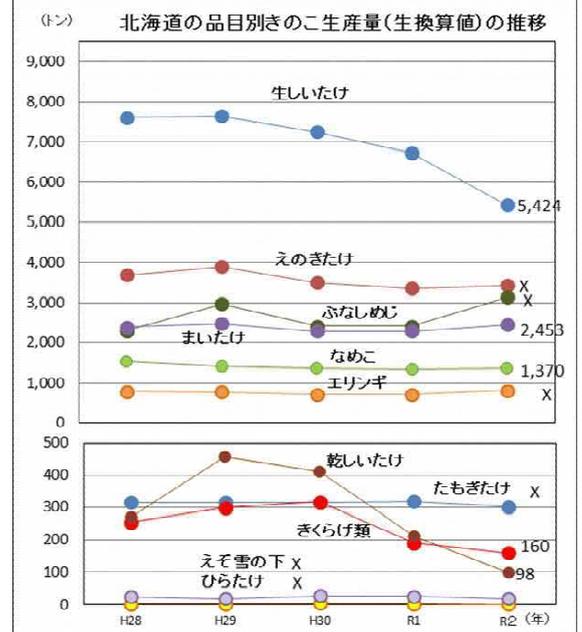
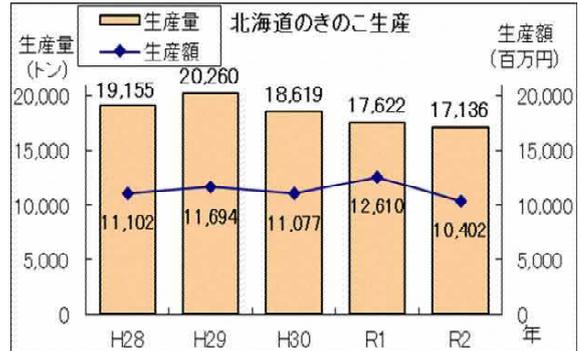
令和2年のきのこ類生産額(推計値)は約104億円(前年比82%)で、前年よりも約22億円減少している。これは令和2年、きくらげ類の市場の取引が20億円減少したことが要因である。品目別では、「えのきたけ」は約6千万円(前年比107%)、「ぶなしめじ」は約5億4千万円(前年比139%)、「エリンギ」は5千万円(前年比112%)、「たもぎたけ」6千万円増加した。

「生しいたけ」は約7億8千万円(前年比84%)、「乾しいたけ」は約5千万円(前年比48%)、「まいたけ」は3千万円(前年比98%)、と「乾きくらげ」は20億円(前年比7.5%)と前年より減少している。

また、生産額全体に占める割合を品目別で見ると、「生しいたけ」が38.5%、「ぶなしめじ」が18.5%、「まいたけ」が17.5%、「えのきたけ」が9.7%、この4品目で全体の84.2%を占めている。

(3) 生産者数

令和2年のきのこ類の延べ生産者数は、162人と前年よりも12人減少し、実生産者数も142人と前年より13人減少している。品目別の延生産者数に占める割合は、「乾・生しいたけ」が123人(原木栽培49人、菌床栽培74人)で75.9%、以下、「きくらげ類」が11人で6.8%、「まいたけ」が9人で5.6%、「なめこ」が5人で3.1%となっている。



2 木炭・木酢液

北海道では、古くから木炭(白炭と黒炭)が燃料用として各地で生産されてきたが、「白炭」は平成 22 年以降生産されていない。

令和 2 年の木炭(白炭と黒炭)生産量の都道府県別順位では、岩手県、高知県、和歌山県に次ぐ全国第 4 位に位置し、全国でも有数の木炭生産地となっている。なお、「黒炭」の生産量は岩手県に次いで全国 2 位となっている。

また、木炭以外では、主に農業用(土壌改良等)に利用される「粉炭」や、農業・家庭園芸用(土壌改良や植物活性等)のほか入浴剤など多方面で用途が広がっている「木酢液」も生産されている。

(1) 生産量

〈木炭(黒炭)〉

令和 2 年の木炭生産量は 819 トン(前年比 98%)で、前年よりも 18 トン減少している。

地域別では、釧路、十勝、渡島地域が主産地で、この 3 地域で全道生産量の 87.6%を占めている。

〈粉炭〉

令和 2 年の粉炭生産量は 368 トン(前年比 94%)で、前年より 25 トン減少している。

地域別では、上川、十勝、釧路地域が主産地となっている。

〈木酢液〉

令和 2 年の木酢液生産量は 55kℓ(前年比 106%)で、前年より 3kℓ増加している。

地域別では、胆振、十勝地域が主産地となっている。

(2) 生産額

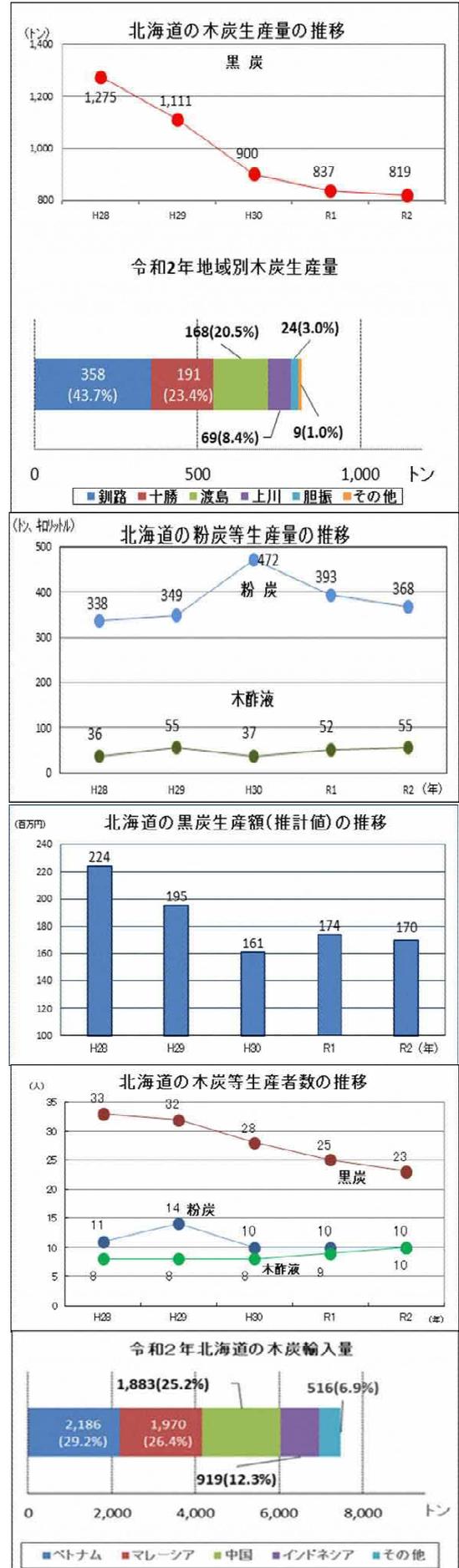
令和 2 年の木炭生産額は約 1 億 7 千万円(前年比 98%)で、前年より約 4 百万円減少している。

(3) 生産者数

令和 2 年の木炭等生産者数は、木炭(黒炭)が 23 人で前年より 2 人減少、「粉炭」は 10 人で同数、「木酢液」は 10 人で 1 人増となっている。

(4) 木炭の輸入

令和 2 年の木炭輸入量は 7,474 トン(前年比 89%)で、前年より 949 トン減少している。輸入量の国別割合は、ベトナムが 2,186 トンで 29.2%と最も多く、次いでマレーシアが 1,970 トンで 26.4%、中国が 1,883 トンで 25.2%、インドネシアが 919 トンで 12.3%、となっている。



3 薪

薪は近年、家庭用の薪ストーブやレストラン等の業務用ピザ窯、パン窯等で使用されているほか、農業用ハウスや温泉施設に薪ボイラーが導入されるなど、薪を利用する施設が増加しています。

(1) 生産量

令和2年の薪生産量は、14,012立方メートル(前年比129%)で、前年より3,140立方メートル増加している。

地域別では、十勝、石狩、胆振、上川、釧路、後志地域が主産地となっている。

(2) 生産者数

令和2年の生産者数は60人(前年比122%)と前年より11人増加している。

4 山菜類

北海道で生産される山菜類は天然物の採取が主体で、全国的には盛んに行われている人工栽培の割合が低いため、天候の影響により生産量が大きく左右されるという特徴がある。

北海道で生産されている主な山菜は、「ふき」、「うど」、「ねまがりたけ」、「わらび」で、その他、「ギョウジャニンニク」、「たらめの」、「こごみ」なども生産されている。

(1) 生産量

令和2年の主な山菜類生産量は654トン(前年比82%)で、前年より144トン減少している。

品目別では「ふき」が627トン(前年比85%)、「ねまがりたけ」は6トン(前年比86%)、「うど」が8トン(前年比18%)、「わらび」が4トン(前年比57%)と全て前年より減少している。

地域別では、「ふき」は空知、オホーツク、十勝地域、「うど」は空知、後志、檜山地域が主産地となっている。

(2) 生産額

令和2年の主な山菜類の生産額(推計値)は、約2億円(前年比91%)で、前年より2千万円減少している。

(3) 生産者数等

令和2年の主な山菜類の実生産者数は13人と前年より3人減少している。

